



WASEDA ROPE

H.30.2.16

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

岩手県 地域ワークショップ 報告書

2018（平成30）年2月15日（木）に、「スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」岩手県地域ワークショップが開催されました。当日は、岩手県のオリンピック・パラリンピック教育推進校の先生や教育事務所の方々にご来場いただき、下記の要領で盛会の裡に終了いたしました。

【開催概要】

日時：2018（平成30）年2月15日（木）13時30分～16時30分

会場：サンセール盛岡

主催：岩手県コンソーシアム、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：23名

プログラム：

13:30～13:35 主催者挨拶 岩手県教育委員会事務局保健体育課総括課長 荒木田 光孝 氏

13:35～14:45 グループごとの実践報告・協議・発表

14:45～15:05 講評・実践事例紹介

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター 主幹研究員 吉永 武史氏
研究員 岡田 悠佑氏

15:05～15:20 休憩

15:20～16:25 シンポジウム「Road to Tokyo 2020」

オリンピック北京・ロンドン大会 フェンシング日本代表
千田 健太 氏

パラリンピックバンクーバー大会 チェアスキー大回転座位日本代表
横澤 高德 氏

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター 主幹研究員
吉永 武史 氏

16:25～16:30 連絡

16:30～16:35 閉会の言葉

開会行事では、岩手県教育委員会事務局保健体育課総括課長の荒木田光孝氏より主催者挨拶がありました。

続いて、参加いただいた推進校の先生方を3つのグループに分け、今年度の各校におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践の報告と課題について協議が行われました。先生方からは、各校でオリンピック・パラリンピック教育を行う際の工夫として、事前学習としてオリンピック・パラリンピックの価値や歴史についての授業を行ったこと、その際にスポーツ庁の資料（「オリンピック・パラリンピック教育」）を活用したこと、DVDやYouTubeを活用したことなどが挙げられました。また、課題としては、年間の教育課程の中でオリンピック・パラリンピック教育をどのように位置づけるか、学校全体でオリンピック・パラリンピック教育に取り組むにはどうすればよいか、学校に来てもらうオリンピック・パラリンピアンと事前に打ち合わせを行うにはどうすればよいか、継続的にオリンピック・パラリンピック教育を行うにはどうすればよいか、などが挙げられました。また、今後のオリンピック・パラリンピック教育の発展に向けて、オリンピック・パラリンピアンだけでなく、オ

オリンピック・パラリンピック競技大会を支える大会関係者などの人たちも、オリンピック・パラリンピック教育として活用したらよい実践が行えるのではないかと、というアイデアも出ました。



協議の様子



協議の様子

協議の後には、本センター主幹研究員の吉永武史氏による講評、同研究員の岡田悠佑氏による全国のオリンピック・パラリンピック教育の実践報告が行われました。

休憩後、「Road to Tokyo 2020」というテーマで、オリンピックの千田健太氏（オリンピック北京・ロンドン大会フェンシング日本代表）、パラリンピアン横澤高德氏（パラリンピックバンクーバー大会チェアスキー大回転座位日本代表）、そして本センター主幹研究員の吉永武史氏によるシンポジウムが行われました。



千田 健太 氏



横澤 高德 氏

千田氏、横澤氏からは、オリンピック・パラリンピック競技大会に参加したときの思い出や苦労したことなどの報告の後に、コーディネーターの吉永氏のもとで、オリンピック・パラリンピック競技大会の裏話、東日本大震災のときの取り組み、各種学校でオリンピック・パラリンピック教育を行ううえで大切にしていること、さらには子どもたちに伝えたいことなどについてのお話がありました。フロアからの質疑応答では、パラリンピック競技大会での障害の区分に関する不正や、これまで指導を受けた中で感銘をうけた指導者の言葉などについての質問が出ました。

最後に、岩手県教育委員会事務局菊池勝彦氏からご挨拶をいただき、閉会となりました。



ワークショップの様子



集合写真